

1 単元名 欧米の進出と日本の開国

2 単元の目標

- 欧米諸国のアジア進出や日本の開国とその影響について関心をもち、意欲的に追究してその特色をとらえようとする。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 欧米諸国における近代社会の成立とアジア進出、日本の開国とその影響について多面的・多角的に考察し、公正に判断し、適切に表現することができる。(社会的な思考・判断・表現)
- 欧米諸国における近代社会の成立とアジア進出、日本の開国とその影響について、様々な資料から情報を適切に読み取り、考察した過程や結果などをまとめたりすることができる。(資料活用の技能)
- 欧米諸国のアジア進出を背景に、我が国の開国とその影響を理解し、その知識を身に付けることができる。(社会的事象についての知識・理解)

3 単元の指導について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領の歴史的分野の内容(5)「近代の日本と世界」のA及びイを受けて設定したものである。この単元では、欧米諸国における市民革命や産業革命、アジア諸国の動きなどを通して、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことや幕府が開国したことによる政治的、社会的影響について理解させることを主なねらいとしている。

17世紀から始まるイギリスの名誉革命やアメリカの独立、フランス革命などの市民革命、イギリスから始まった産業革命によって、欧米では近代社会が成立した。その後、欧米諸国は市場を求めて、アジアやアフリカに進出し、植民地化を進めていくことになり、「鎖国」の状態にあった日本にも欧米諸国が接近するようになっていく。

そのような中、1853年にペリーが来航する。ペリーの強硬な態度に江戸幕府は、今までの外国政策を転換し、開国する。その後、不平等条約を結び欧米諸国との貿易が始まるが、大量の金貨の流出や多くの品物が輸出されたことにより物価が急上昇し、社会は大混乱に陥る。その結果、貿易や外国人に対する反感が噴出し、尊皇攘夷運動が高まり、その流れでおよそ260年間続いた江戸幕府は滅亡する。

我が国の歴史は、中国や朝鮮などのアジア諸国や欧米諸国と密接な関わりもち、ここまで成長してきた。開国とその影響について、欧米諸国のアジア進出と関連付けて取り扱う本単元の内容は、我が国の歴史展開を世界の動きと一層関連づけて学習する上で、重要な単元であると考えられる。

(2) 生徒の実態 (男*名, 女*名, 計*名)

平成*年*月*日実施

| 調査項目 | 回答(人) |
|---------------------------------------|---|
| ○社会科でどのような授業形態が好きか。(複数回答) | ・グループ学習* ・資料を読み取る* ・調べる* ・教科書を読む* ・話を聞く* ・プリント* |
| ○18世紀後半～19世紀前半にかけての外国の接近についての理解(複数回答) | ・ロシアやイギリスなど(外国)が接近した* ・異国船打払令を出した* ・異国船打払令をやめた* ・鎖国を続けた* ・記述なし* |
| ○ペリーの認知度 | ○...* ×...* |
| ○ペリーの行ったこと(複数回答) | (想定キーワード:開国, 浦賀, 条約, 黒船) ・開国をせまる(鎖国をやめさせる)* ・黒船来航* ・日米和親条約* ・大統領国書* ・鎖国をした* ・貿易を禁じた* ・分からない* |

実態調査の結果を見ると、生徒は小学校第6学年の歴史学習において、ペリー等の人物に焦点を当てた学習をしているため、ペリーの人物像や黒船で日本に来航したこと、開国を迫ったことなどを理解している生徒が多い。本学級の生徒は、本単元に関わる内容に限らず、基礎的な知識を身に付けている生徒が多い。学習形態に関しては、*人程度の生徒がグループ学習が好きと答えている。しかし、授業の様子をしてみるとグループ活動において、発言力のある生徒の発言が中心になっていたり、課題の意図を十分に理解していないため話し合いが停滞したりすることも見られた。これらのことから、基礎的な知識は身に付けているが、積極的に発言したり自分の意見を述べたりすることについて、苦手意識をもっている生徒が多いのが実態である。

(3) 指導観

本単元では、欧米諸国における近代国家の成立やアジア進出といった世界の歴史を取り上げる。今回、世界的な内容を我が国の歴史との関連で扱うが、市民革命や産業革命は、生徒にとって初めて学習する内容のため既得知識が少なく、理解することが難しいと思われる。一方、ペリーの来航については、小学校の既習内容であり、知識が定着している。そこで、第1時でペリーの来航と日本の開国を取り上げ、その後、「日本へ開国を迫る欧米諸国の歴史的背景」や「開国による影響」を追究できるように、単元構成を工夫して設定することとした。その際、第1時で単元を貫く学習課題を設定して、生徒に課題意識をもたせ追究意欲を引き出した。

また、ペリーの開国要求に、「自分なら開国するか、鎖国を続けるか」を考えさせるとともに、生徒間で意見交換する学習活動を設定する。さらに、当時の状況を疑似体験的にとらえさせ、歴史的な事象への関心を高め、多面的・多角的に歴史的な事象をとらえる見方や考え方の育成を図るとともに、情報から読み取ったことを自分なりに解釈し、意志決定した過程や結果を表現させる場面を設定したい。

欧米諸国のアジア進出については、地理的分野「世界の様々な地域」との関連を図り、アジア州の地域的特色と歴史的な背景との結びつきについても着目させ理解を深めさせる。また、ロシアとの関係では日露和親条約に触れ、北方領土の歴史についても理解を深めるよう配慮する。

学校教育指導方針との関連としては、努力事項の「社会的な思考力・判断力・表現力を育成するための授業改善」を具現化するため、「課題意識を明確にするための社会的な事象との出会わせ方と思考を促す学習課題の工夫」や「意見交換や議論などを通して考える学習など言語活動に関わる学習の充実」を図りたい。

キャリア教育の視点としては、歴史的な事象の背景などを解釈し、原因や結果などを自分の言葉でまとめる活動や意見交換をする場面を通し、課題対応能力を育成したいと考える。

4 指導計画(6時間扱い)

| 時 | 学習活動・内容 | 評価の観点 |
|---|-----------------------|--------------------------|
| 1 | ・ペリーの開国要求に対し、どのように対応す | ・欧米諸国のアジア進出や開国による影響について関 |

| | | |
|----|--|--|
| 本時 | るか考え、その理由について意見交換する。 | 心をもち、意欲的に追究しようとしている。 (社会的事象への関心・意欲・態度) |
| 2 | ・イギリスやフランスの近代国家が成立する過程やアメリカの独立するまでの過程を調べ、まとめる。 | ・市民革命についての情報を様々な資料などから読み取り、年表やワークシートなどにまとめようとしている。 (資料活用の技能・表現) |
| 3 | ・イギリスの産業革命のあらましを中心に調べ、欧米諸国ではどのような変化が起きたのかを考える。 | ・産業革命の進展による欧米諸国の変化を、多面的、多角的に考察し、特色をとらえようとしている。 (社会的な思考・判断・表現) |
| 4 | ・中国、インドへの欧米諸国の進出やロシアの様子を調べ、まとめる。 | ・欧米諸国のアジア進出についての様々な資料から適切に読み取り、まとめようとしている。 (資料活用の技能) |
| 5 | ・通商条約の要求に対してどのように対応するかを考え、その理由について意見交換をし、開国の影響について考える。 | ・開国による国内の影響を多面的・多角的に考察し、その特色をとらえようとしている。 (社会的な思考・判断・表現) |
| 6 | ・尊皇攘夷運動から倒幕運動に変わり、幕府が滅亡し、新政権の成立に至る過程をまとめる。 | ・開国による政治的・社会的な影響により明治維新への動きを生み出したことをまとめ、理解しようとしている。 (知識・理解) |

<具体的な言語活動>

- ・日本の開国について、資料を基に調べたり、意見交換したりして自分の解釈をまとめる。

<期待される言語活動の姿>

- ・日本の開国について、資料を基に調べたり、意見交換したりすることでまとめたことをわかりやすく表現することができる。

5 本時の指導

(1) ねらい

- ペリーの来航と幕府の対応について考える活動を通して、欧米諸国のアジア進出や開国による影響について関心をもち、意欲的に追究しようとしている。
(社会的事象への関心・意欲・態度)

(2) 準備・資料

- 提示資料「ペリーの肖像画」「外国船の出現」「ペリー来航図」など、ワークシート

(3) 展開

下線部はキャリアの視点

| 学 習 活 動 ・ 内 容 | 支援の手だて・評価 (※評価) |
|--|---|
| 1 様々なペリーの肖像画を見て、どうして様々な肖像画が描かれたのかを考えるとともに、ペリーが開国を求めて来航したことを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での既習内容を想起させ、黒船が開国を求めて浦賀に来航したことを確認する。 ・様々なペリーの肖像画から、ペリー来航に対する当時の人々の当時の驚きと関心の高さに気付かせる。 ・ペリー来航により初めて蒸気船を目の当たりにし、空砲の音に人々が驚いたことを補足説明する。 ・本時の課題を確認する。 |
| 2 本時の学習課題を確認する。 開国の要求に対して、大名(自分)だったらどのような対応をしたのだろうか？ | |
| 3 開国までの日本を取り巻く状況を確認する。 (主な確認事項) ・過去の外国船の出現と各藩の対応について ・異国船打払令について ・アメリカ大統領の開国を求める親書やオランダからの情報など | <ul style="list-style-type: none"> ・以前からロシア、アメリカ、イギリスなどが来航し、通商や補給を求めていたことや幕府が鎖国が租法として通商を拒否していたことを思い出させる。 ・当時の欧米諸国の様子を調べることを通して、欧米諸国が開国を求める理由を考えさせる。 ・開国した場合と拒否した場合の双方について、どのような影響があるかを考えさせる。 |
| 4 幕府に意見を求められた大名の立場になって、開国の要求に対してどのように対応したらよいかを考える。 (1)個人でどのような対応が良いかを考え、ワークシートに記述する。 (2)ペアで、お互い意見交換する。 ※ペアを変え、意見交換をする。 (3)友達の意見を基に、再度自分の考えをまとめる。 (4)今日の学習を基に、疑問(今後の課題)をまとめ、ワークシートに書く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を根拠を基に説明させる。 ・開国についての意見を自分なりにまとめ、互いの意見を交換する活動を通して、課題対応能力を伸ばしたい。 ※ペリーの来航と幕府の対応について考える活動を通して、欧米諸国のアジア進出や開国による影響について関心をもち、意欲的に追究しようとする。 (観察、ワークシート) 意見交換を基に自分の考えをまとめ、開国の理由とその後の国内の様子などについて、関心をもつことができる。 |
| 5 疑問(今後の課題)を全体で発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実際の大名は、攘夷が多数を占めていたことを伝え、思考を揺さぶりたい。 |
| 6 疑問(今後の課題)をまとめ、単元を貫く学習課題について確認する。 ※単元を貫く学習課題 欧米諸国は、どのような目的でアジアへ進出し、日本は開国によりどのような影響を受けたのだろうか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本単元のまとめは、単元を貫く課題を設定することとする。 ・次時から設定した学習課題を基に学習を進めることを伝える。 |